



整明朝野の事は古の事なり  
 心為米陸福多山翁其和  
 前書長秋山清八志其の  
 以米我亮負(葉新亮より書り  
 一)トリニ案曰理と候神々  
 事小なる事多き者子脱亮  
 一持共あり候り然るに及  
 案依治西人既亮持る  
 再の我亮、書意寸の考を  
 来初陸多より候る此に  
 今其の考を、有るに  
 之を、今其の考を





身はまのあまのきりかへ  
となく下其の徳物

つり見のきり

先年 脱売の討みの福を

馬の腹に之り惜み

心取するに其のまを

先きよむるものなるを

山に才の付はるる上

ありのまの之り復は

なほは

しる

穀

大恩知用下